

## 韓国の外国語教育及び外国語としての韓国語教育における CEFR 応用の現状に関する実態調査

ソ・アルム

1. はじめに
2. 韓国の大学英語教育における CEFR 応用の現状：延世大学の「英語認証プログラム」
3. 韓国のフランス語教育における CEFR 応用の現状：ユン (2008) による「ポートフォリオ・モデル」
  - 3.1 ユン (2008) が提示するポートフォリオ・モデル
4. 韓国のドイツ語教育における CEFR 応用の現状：グオン (2009) による「ドイツ語教育課程のレベル分け記述一覧」
5. 外国語としての韓国語教育における CEFR 応用の現状：「国際通用韓国語教育標準モデル」
  - 5.1 「国際通用韓国語教育標準モデル1段階」の概要
  - 5.2 「国際通用韓国語教育標準モデル2段階」の概要
6. 韓国の外国語教育の分野における独自の共通参照枠の紹介：韓国外語大学の語学検定試験 (FLEX : Foreign Language Examination)
7. おわりに

### 1. はじめに

韓国の外国語教育及び外国語としての韓国語教育の分野では、言語学習や教授、評価における体系的で国際的な参照枠が用意されていないというのが現状である。また、その重要性も軽視されてきたといっても過言ではない。しかし、グローバル時代の人材育成のためには、国際的な共通基準が必要であるということから、ヨーロッパ言語共通参照枠組み (Common European Framework of Reference for Languages : 以下、CEFR) を活用および応用しようとする試みが進められている。

2001年、欧州評議会でEU内の外国語教育基準として採択されたCEFRは、現在、約47ヶ国で取り入れられ、語学講座や授業計画、教育課程、資格取得などに適用されている。CEFRは2001年に出版されたドイツ語版を始め、各国で翻訳された。日本では2004年に、韓国では2007年に翻訳版が出版されるなど、アジア地域におけるCEFRの応用も活発になりつつある。とりわけ、韓国の外国語教育の分野では、CEFRをどのように外国語教育に適用し、評価体系を構築していけば良いかについての議論が行われている。

その代表例として、2007年に「성공적인 외국어 교육을 위한 기준 설정 [成功的な外国語

教育のための基準設定<sup>1)</sup>』というタイトルで開かれた国際学術大会や、2008年に行われた国際学術大会「언어학습, 교수, 평가를 위한 유럽 공통 참조기준에 따른 교육과정과 평가의 표준화 [言語学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠組み (CEFR) による教育課程と評価の標準化]<sup>2)</sup>」が挙げられる。このように、CEFRを活用しようとする試みは今でも進められている。

本稿では、以上の背景を踏まえ、韓国における外国語教育及び外国語としての韓国語教育分野における CEFR の応用現状についての実例を紹介し、CEFR の応用における今後の方向性を述べる。

## 2. 韓国の大学英語教育における CEFR 応用の現状：延世大学校の「英語認証プログラム」

韓国の大学の中で CEFR を取り入れている大学として、延世大学校<sup>3)</sup>が挙げられる。延世大学校は、多様な形態の英語教育を体系化し、学生のアカデミック英語能力を向上させることを目的とした「英語認証プログラム」を 2010 年から実施し、韓国の英語教育における CEFR の適用・実践に力を入れている。英語認証プログラムのレベルは、以下のように分類されている。

表 1 延世大学校の英語認証プログラムにおけるレベル分け

最高荣誉認証 (Certification - High Honors)	C2	一番高い水準の英語能力を獲得した学生
荣誉認証 (Certification - Honors)	C1	最高荣誉認証に続き、とても高い水準の英語能力を獲得した学生
高級認証 (Certification - Advanced)	B2	1年生の大学英語プログラム(下記表2参照)のうち、高級大学英語の水準に該当する科目を履修した学生
延世英語認証 (Yonsei English Program)	B1	1年生の大学英語プログラムのうち、大学英語水準の科目を履修した学生に卒業与件が満たされたことを認証する

さらに、延世大学校では、「延世大学校1年生大学英語プログラム (Yonsei University Freshman College English)」を実施している。このプログラムは、「高級大学英語 (Advanced)」、「大学英語 (College English)」、「大学基本英語 (Basic College English)」の3つのレベルで構成されてお

<sup>1)</sup> 한국교육과정평가원[韓国教育課程評価院]の機関誌である「교육광장[教育広場]」2007年12月号に、この学術大会に対する報告が掲載されている。

<sup>2)</sup> 在韓ドイツ文化院と学術振興財団 (DAAD) が共同で主催した。

<sup>3)</sup> 延世大学校は、1957年に設置された総合大学で、ソウル市西大門区に本部を置く大韓民国の私立大学である。大韓民国で一番歴史の長い大学で、学風は「韓国の慶應義塾」と呼ばれることもあり、慶應義塾大学とは姉妹校の協定を結んでいる。

り、新入生は、学内診断評価の結果や他機関の英語検定試験<sup>4</sup>の結果に準じ、科目を選択することができる。各レベルにおける詳細を表 2 に述べる。

表 2 延世大学校 1 年生大学英語プログラムにおけるレベル分け

高級大学英語	B2	比較的複雑な内容が理解でき、自分の意見を言葉または文章で表 現できる段階である。本プログラムの最終目標であると言える。 全て絶対評価により行われている。
大学英語	B1	学習者になじみのあるテーマを用い、コミュニケーションするこ とができる段階で、コミュニケーションの遂行能力を発揮する過 程に焦点が当てられている。
大学基本英語	A1	基礎的な英語能力を学習する段階である。大学基本英語は、共通 基礎内容の I と ESP (English for Special Purpose) 科目の II に分か れる。

現在、延世大学校のほかにも、CEFR を大学の教育システムに導入している大学はないが、延世大学校を筆頭に、徐々に広がっていくことを期待している。

### 3. 韓国のフランス語教育における CEFR 応用の現状：ユン（2008）による「ポートフォリオ・モデル」

ユン(2008)は、韓国教育課程評価院による教育課程の改善案の提言 に深く共感しながら、韓国におけるフランス語教育で「自己主導学習 (l'apprentissage auto-dirigé)」を広め、望ましい教育および評価方法を模索することを考え始めた。そこで、CEFR に提示されている「言語ポートフォリオ」に注目し、韓国の高等学校のフランス語学習者に自己主導学習を可能とさせる実践的な評価方法を考案した。その評価方法とは、言語ポートフォリオを、既存の「量的評価」だけでなく、学習課程や学習における態度などのような質的側面を考慮して評価する「質的評価」へ応用することである。続く 3.1 でその概要および詳細を示す。

#### 3.1 ユン（2008）が提示するポートフォリオ・モデル

ユン（2008）言語ポートフォリオ・モデルは、既に学習した内容を学習者自身が確認することができる一種の学習材料である。言語ポートフォリオを通じて、学習者が自分の学習成果を確認することにより知的好奇心が刺激され、学習意欲を引き出すことができる。

ユンは、学習者の年齢層や関心などを考え、視覚的な効果および遊戯的な要素を取り入れた項目を設定し、教育目標や言語生活における有用性を優先的に考慮し、各項目における内容を

<sup>4</sup> ETS (Educational Testing Service) が主管・実施している TOEIC (Test of English for International Communication) や TOEFL (Test Of English as a Foreign Language)、そして、ソウル大学校言語教育院が主管・実施している英語能力検証試験である TEPS (Test of English Proficiency) や SNULT (Seoul National University Language Test) などのような英語検定試験が該当する。

記述した。また、CEFR の背後にある複言語主義 (Plurilingualism) の理念に基づき、初級学習者が表現したい内容をフランス語で表現できないときは、まず、母語や中間言語を用いてポートフォリオの項目を記入していくようにする方法を取り入れた。そして、評価項目の設定において、学習の妥当性、有用性、時事性、文化に対する背景知識、および相互意識などに対し、自己点検を行うことができるように構成することに重点を置いた。

それでは、ユン (2008) が設計したポートフォリオを、ガイドラインと項目内容の2つに分け、箇条書きする。

#### ◎ポートフォリオの詳細

・対象：韓国国内でフランス語を学ぶ韓国の高校生（一般系高校、外国語高校、芸術系高校、特性化高校、国際高校など<sup>5</sup>）を対象とする。

・制作方法：教材を出版した出版社から、教科書およびワークブックとともに制作して配布するか、担当教師が個別的に作成して提供する。

・使用期間：フランス語Ⅰ（週3時間基準、総100時間）、フランス語Ⅱ（週2時間基準、総70時間）の全課程にかけてポートフォリオを完成させるようにする。現場の状況により、ポートフォリオを構成する項目を調整しても良い。

・目的：自己評価、形成評価、課程評価という機能を持つ評価道具や、フランス語授業と並行する学習道具として活用できる。

・構成：全体項目の構成は、Conseil de l'europe (2003, 2006) に提示されている「言語パスポート (The Europass Language Passport)」、「言語学習記録 (Language Biography)」、「作品集 (Dossier)」を参照し、3段階に分けた。さらに、社会的行為者 (agent) としての「私」の発達過程に焦点を置き、学習者のアイデンティティ、学習課程、そして言語体験を記録することのできる道具になるように項目を選定している。これは、CEFR の持つ質的評価および課程評価という趣旨を活かす形であると言える。

#### ・評価方法

##### (1) 自己評価のための手段としてのポートフォリオを活用

：各課の学習項目を学習してから、学習者が自ら項目を記入していく。

##### (2) 遂行評価の道具としてのポートフォリオ活用

：授業後、関連項目を取り上げ、学習者がポートフォリオを完成するように指示し、定期的にフィードバックを行う。

上記の評価方法により、学習者がどのような学習過程を経てきたかが分かるのはもちろん、それを点数化することも可能となるだろう。

---

<sup>5</sup> 韓国の高等学校は、目的により3つに分類される。大学進学を目的にしている「一般系高校」、職業教育が目的である「産業・工業高校」、自律型私立高校や外国語高校、科学高校、芸術高校、国際高校などのような「特集目的高校」で構成されている。

・注意点：CEFR が迫及する複言語主義の理念により、学習者が表現しようとする内容と学習者の言語能力の間に生じる乖離については次のように対応する。まずは、韓国語やその他の言語、絵文字などを使用して記録するようにし、学習レベルが上昇していくことにつれ、学習者自身が記録した内容をフランス語に書き換えたいときは、既存の記録内容を削除せず、同じ内容をそのままフランス語で記入するように適切な指示を行う。このような方法により、学習者は自分の言語能力の発達を確認することができる。

以上に述べた内容に基づいて作成されたものが、「ポートフォリオ・モデル」である。以下の表 3 にその詳細項目を提示する。

表 3 ポートフォリオ・モデルにおける詳細項目

<b>Qui suis-je? (私は誰なのか?)</b>	
自分の基本情報	名前、あだ名、生年月日、年齢、学校、学年、電話番号、メールアドレス、ブログ、ID、趣味など。
自分の写真および自分を象徴するもの	過去の自分の写真、現在の写真、家族と一緒に撮った写真、アバターなど。
大事にしているもの	最も大事にしているもの三つを取り上げること。
大事な人	最も大事な人を三人取り上げること。
5年後の自分	学業に関する内容
10年後の自分	職業に関する内容
使える外国語	
海外旅行したことのある国	
これから旅行したい国	
<b>Que sais-je? (何を知っている?)</b>	
世界の中の私：一般知識	
世の中と私	世界地図の六大陸の位置、地図上の韓国とフランスの位置、フランス語圏の概念、フランス語圏の国、様々な言語の定義（母語、供用語、第二言語、外国語）など。
地理的知識	韓国・フランスの隣接国、六大陸・五大洋、韓国・フランスの主要都市、河川や山脈の名前および位置など。
時事的知識	地理的位置、政治的状況、私が住んでいる都市、フランス・フランス人に関係のある歴史的事件、フランスにおける韓国のイメージや韓流の現状、フランスに知られている韓国のブランド、フランスに進出した韓国企業、フランスにある韓国語教育機関など。
私たちの中のフランス	外国人・フランス人に会った経験、外国・フランスの食べ物を食べた経験、韓国におけるフランスのイメージ、韓国に紹介されたフランスのブランド、フランス語由来の外来語など。
フランスに対する私の関心	日常生活およびメディア関連（サッカー、新聞、雑誌、放送、インターネット、映画、ミュージカル、ワイン、チーズなど）、制度および文化（学制システム、法律、行事など）、歴史、産業。

社会の中の私	両親、兄弟、ペット、恋人、先生の紹介
私の発展：言語活動	
PRODUCTION ORALE	挨拶、お祝い、紹介、感謝、謝り、要求、依頼、質問、応答、要請など。
PRODUCTION ECRITE	友達、外国人とのやり取り（手紙、メール）、ハガキ、招待状、承諾、断り、書類の作成、日程表、日記、発表など。
RECEPTION ECRITE	メニューや時間割、案内文、広告で必要な情報を探り出すこと、短いメッセージや手紙、調理法、説明書、要約文、易しい記事、漫画、歌詞、詩に現れている情緒、授業の主題、映画のあらすじの「テキストの内容を理解する」
RECEPTION ORALE	単純な会話、日常会話、人・物の描写、場所・状況に対する描写、電話における会話、ラジオの天気予報、ニュース、簡単な質問、簡単な要求、任務、明快で短いメッセージを「聞いて理解する」
<b>Comment je le sais? (どうやって知ることになったか?)</b>	
文化関連資料のまとめ	
読書体験の記録帳	
言語学習経験記録帳	
毎日の学習過程記録帳	

ユンのポートフォリオ・モデルについて、教育現場のフランス語教師 30 人を対象に行ったアンケートによると、ポートフォリオが学習者に動機を持たせる材料として機能するという項目に対しては肯定的な反応があったが、量的評価への活用可能性を問う質問については、「教育制度との摩擦」という問題が生じるという否定的な意見が述べられていた。

ユンは、「現場の教師はポートフォリオによる評価の意義に強く共感している」と言いながら、合理性および効率性のある量的評価と、質的評価を調和させる方策を探ることが望ましいということを主張した。そこで、最も重要なのは、ポートフォリオのような質的評価の枠組みを、広めていくことだろう。また、言語ポートフォリオが自己評価のための手段であるとはいえ、教師とのフィードバックを欠かすことはできないため、評価に必要な要素である「信頼性 (reliability)」、「妥当性 (validity)」、「実現可能性 (feasibility)」についても検討していくことが今後の課題として挙げられる。

#### 4. 韓国のドイツ語教育における CEFR 応用の現状：グオン（2009）による「ドイツ語教育課程のレベル分け記述一覧」

韓国にある長老会神学大学校（以下、長老大）では、CEFR を活用し、「ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧」を設計した。設計の背後には、CEFR における 6 段階のレベル分けの能力尺度および記述文がある。長老大では、CEFR に倣い、1) 長老大の教育理念と関連づ

けて、ドイツ語教育の目標を導き出す、2) 教育課程の外に存在する枠組みを記述し、教育目標に基づく到達点を定める、3) 記述カテゴリーを設け、各レベルを説明できる記述文を設定する、4) 各レベルにおける学習内容を記述する、という4つの観点に基づき、ドイツ語教育課程を具体化することを目的にした。それでは、以下に、その枠組みの詳細について概観する。

まず、長老大学のドイツ語教育課程に関して簡単に述べる。長老大学のドイツ語教育課程は、2学期制で、2年の学習期間を前提としている。しかし、ドイツ語学科が別途に設けられているのではなく、神学科、キリスト教教育学科、そして教会音楽科の学生を主な対象として行われている。

次に、この大学におけるドイツ語学習者の殆どは、高校で日本語や中国語を第二外国語として学んだため、ドイツ語についての基礎知識がないということがグォン(2008)に述べられている。このような特徴を持つ長老大学のドイツ語学習者に対する教育目標は、1) ドイツ語を、ドイツの文化および言語など、学問的な知識を身につけるための手段として用いることができるようにするためにふさわしい言語能力を学習させる、2) グローバル社会に必要な人材育成および宣教活動に必要な言語的手段として、国際的レベルに近い外国語能力を学習させる、の2つに分けることができる。

上記の目的により開設された授業を、1年生の場合、週4時間の授業(1年120時間)が必須科目として、2年生は、週3時間の授業(1年90時間)を選択科目として勉強する。これを、在韓ドイツ語文化院(Goethe Institut Seoul)の授業時間である144時間(1段階)と比較してみた結果、長老大学のドイツ語教育課程における最終目標レベルは、A1およびA2となるという<sup>6</sup>。以下の表4に、その目標をレベル別に述べる。

表4 長老大学のドイツ語教育課程における学習目標および能力記述文

学習目標	言語の熟達度における能力水準記述文
A1	Deutsch I (A1-1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な欲求を満たすために必要な日常的な表現および簡単な文章を理解し、使うことができる。</li> <li>・他人を紹介することができる。</li> <li>・他人の身の回りのことについて質問することや、そのような質問に答えることができる。</li> <li>・話し相手がゆっくりしたスピードで明らかに話すのであれば、簡単なコミュニケーションを行うことができる。</li> </ul>
	Deutsch II (A1-2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で使われる簡単な案内文やお知らせを理解することができる。</li> <li>・他人を紹介することができる。</li> <li>・他人の身の回りのことについて質問することや、そのような質問に答えることができる。</li> </ul>

<sup>6</sup> 長老大学のドイツ語教育課程における授業時間数は、在韓ドイツ語文化院に比べると足りないため、A1とA2をそれぞれ2つに分け、AI-1、AI-2、AII-1、AII-2に設定した旨を予め示しておく。

A2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し相手がゆっくりしたスピードで明らかに話すのであれば、簡単なコミュニケーションを行うことができる。</li> <li>・短くて簡単なハガキを書くことができる。</li> </ul>
	Deutsch III (A2-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な分野（日常、家族、買い物、仕事、身の回りや周辺地域の情報）に関わりのある文章やよく使われている表現を理解することができる。</li> <li>・日常生活で使われる日常的な質問や簡単な質問、答え、そして自分の身の回りに関する質問や答えを聞き、理解し、話すことができるのはもちろん、簡単に記述することも可能である。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な標準語を使い、仕事や学校、余暇の時間などのように馴染みのある事柄がテーマであれば、要点を理解することができる。</li> </ul>
	Deutsch IV (A2-2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純で繰り返される状況の中で、一般的で馴染みのある問題について、簡単に直接的な情報交換のための意思疎通をすることができる。</li> <li>・簡単な手段を用い、自分の出身や学歴、身近な場所などに関連のあることを記述することができる。</li> </ul>

以上に述べた長老大のドイツ語教育課程における学習目標や能力記述文に基づき、講座別教育内容を以下の表 5 に具体化した。表 5 に提示されている機能別カテゴリーは、CEFR の第 4 章および第 5 章を参考にし、設定されたという。

表 5 長老大のドイツ語講座別教育内容

	学習目標	語彙	文法的正確性	話す	書く	聞く	読む	口語相互作用	文語相互作用
ドイツ語 I	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1
ドイツ語 II	A1+	A1+	A1+	A1	A1	A1	A1+	A1	A1
ドイツ語 III	A2-	A2-	A2	A1+	A1+	A1+	A2	A2-	A2-
ドイツ語 IV	A2	A2	A2~B1	A2-	A2-	A2-	A2~B1	A2-	A2-

長老大のドイツ語教育課程は、CEFR に準じ、各講座における学習目標や内容を設定し、教科課程の枠組みの中で、学習者が効果的にドイツ語を学べる環境を作り上げたということにその意義があると言えよう。また、長老大では、オフラインだけでなく、オンラインでもドイツが学習できるウェブ基盤学習システムを構築し、多様な教材や媒体を用い、高い学習効果を得ている。しかし、長老大の目指す学問的なドイツ語能力を養うためには、最終目標を B1 または B2 に設定する必要があるということは、今後の課題として残されている。



## 5. 外国語としての韓国語教育における CEFR 応用の現状：「国際通用韓国語教育標準モデル」

韓国語教育の規模や需要は拡大、増加されているものの、韓国語教育の内容や体系——教授法、学習、および評価など——は、地域または教育機関により異なっていたのがこれまでの韓国語教育の現状であった。それを克服する形で構築された標準教育課程が、韓国の国立国語院と慶熙大学校の共同研究により 2010 年に発表された「국제 통용 한국어 교육 표준 모형 [国際通用韓国語教育標準モデル] (以下、国際韓国語標準モデル)」である。2010 年にモデル 1 段階、2011 年にはそれをより具体化したモデル 2 段階が作成された。ここでは、紙幅の都合上、国際韓国語標準モデルの構成および詳細のみ概観する。

### 5.1 「国際通用韓国語教育標準モデル 1 段階」の概要

国際韓国語標準モデル 1 段階の開発は、国家的な次元で標準化された教育課程がないという問題提起から始まった。標準モデルの不在により、教育的、形式的、そして内容的側面における韓国語教育が地域や機関ごとに異なるということも、韓国語教育における問題として挙げられた。そこで、2010 年に発表された国際韓国語標準モデル 1 段階では、韓国語教育の「標準教育課程<sup>7</sup>」を提示し、標準となる目標とレベルを設定した。

まず、以下の図 1 に示す標準教育課程は、「内容の包括性」、「使用の便利性」、「資料の有用性」、そして「適用の融通性」の 4 原理で構成されている。



図 1 標準教育課程の設計の背後にある原理

<sup>7</sup> 「標準教育課程」は、多様な形で行われている韓国語教授・学習が、適切な水準および内容に基づいて行われているかを判断する客観的な準拠であり、CEFR に述べられている「言語能力に対する共通的な記述体系があるのであれば、異なる体系と状況の下で、学習目標、段階、資料、そして評価などを比較することが用意となる」という理念を参照している。

次に、国際韓国語標準モデル1段階では、学習レベルを7段階に分けて提示している。また、標準教育課程および7段階学習レベル尺度とともに、標準教育課程の適用における変異型として「世宗学堂モデル」、「結婚移民者モデル」、そして「社会統合プログラムモデル」を示した。しかし、提示された基準の実効性を高めるために、それらを具体化する必要があるということから、国際韓国語標準モデル2段階に対する研究が始まることになった。続いて、モデル2段階について述べる前に、国際韓国語標準モデルにおけるレベル分けを、韓国語能力試験(TOPIK)の学習レベルと比較したものを図2に提示する。

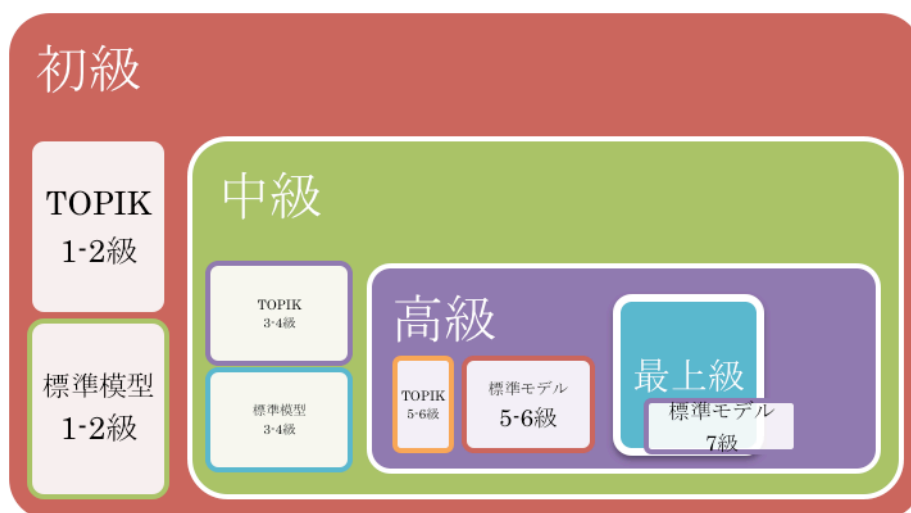


図2 韓国語能力試験 (TOPIK) と国際韓国語標準モデルのレベル分け比較図

## 5.2 「国際通用韓国語教育標準モデル2段階」の概要

国際韓国語標準モデル2段階は、モデル1段階で研究・開発された「標準教育課程」における7段階の学習レベル、学習レベルにおける学習目標や内容、各学習レベルにおける下位カテゴリー（主題、言語記述、言語知識、文化など）の実用性を高めるためのものである。1段階の研究内容を具体化することにより、国内外の韓国語教育機関における教育課程の統一性を確保できたことはもちろん、今後設置される見込みのある韓国語教育機関においても重要な役割を果たすことになることが期待されている。2段階に提示された標準教育課程の学習レベル別下位カテゴリーは、1) 主題<sup>8</sup>、2) 語彙、3) 文法、4) 発音、5) テキスト（文語・口語）、6) 意思疎通における機能・課題、7) 文化の7項目で構成される。各カテゴリーにおける具体的内容は、紙幅の都合上、省略する。

<sup>8</sup> 主題 (topic) の抽出に、CEFR の適用モデルである「Core Inventory for General English (British Council と EAQUALS 共同開発)」が参照された。

## 6. 韓国の外国語教育の分野における独自の共通参照枠の紹介：韓国外語大学の語学検定試験 (FLEX : Foreign Language Examination)

2.1 で述べた延世大学を除くその他の大学における英語教育では、CEFR の導入や応用の動きがないのが現状である。そこで、韓国の外国語教育に最も力を入れているといっても過言ではない韓国語外国語大学 (Hankuk University of Foreign Studies、以下、韓国外語大) において導入・実施されているシステムについて調査した内容を以下に簡単に述べたいと思う。

韓国外語大では、7 カ国語<sup>9</sup>において、全般的な言語能力が評価できる語学検定試験、FLEX (Foreign Language Examination) を開発した。この検定試験は、現在、大韓商工会議所と共同で実施されており、韓国政府が認定する語学検定試験としての役割も果たしている。FLEX は、大企業の採用や大学の編入試験としても使われている。また、2012 年から中国の青島でも試験を実施し始め、国際的な語学検定試験としての発展を図っている。

FLEX の内容は「基礎言語能力」、「生活言語能力」、「実務言語能力」、そして「原語修学能力」という 4 つのカテゴリーに分けられており、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の 4 つの言語技能を評価している。レベルは 7 段階に分けられている。紙幅の制限により、各カテゴリーの詳細は省略する。

## 7. おわりに

本調査は、韓国の外国語教育および外国語としての韓国語教育の分野において、CEFR がいかに応用されてきているかについて調べることを目的に行われた。延世大学校のように、CEFR を英語教育の評価に適用しようとする動きがあるということや、韓国外語大学のように、独自の枠組みが政府との連携により有効に機能しているということが分かった。そして、大学だけでなく、高等学校における第二外国語教育においても CEFR を適用しようとする動きがあるということも、フランス語教育におけるポートフォリオの開発の実例を通じて、把握することができた。また、国際韓国語標準モデルは、韓国語教育における国際的な参照枠組みを構築したということにその意義があると考えられる。また、それを機に、海外の初・中等教育における韓国語の標準教育課程を研究・開発しようとする動きも活発であるということから、国際的な枠組みの開発や応用、実践などがこれからも続くことが期待される。

しかし、CEFR が韓国に広く知られ、導入され始めたのはここ数年のことに過ぎない。そこで、本稿を締め括るにあたり CEFR を導入・適用において、考えなければならないことを取り上げ、今後の課題としておきたい。

先ず、外国語教育や外国語としての韓国語教育分野における既存の参照枠組みを敬遠してはいけな。CEFR の導入・適用を始める前に、既存の参照枠組みや評価尺度を CEFR と比較・対照する過程を通じて、それぞれの国もしくは分野に適合した形で参照枠組みを開発すること

<sup>9</sup> 英語、中国語、日本語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、スペイン語

を考える必要がある。CEFR はあくまでも「参照枠組み」で、教授・学習・評価における絶対的な基準ではないからである。

次に、韓国における CEFR の導入・適用の前に、韓国における ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages : 以下、ACTFL) の研究動向や導入・活用事例を事前に調べておく必要がある。韓国では、CEFR の導入についての議論以前に、ACTFL の評価尺度が既に教育現場において活発に導入・応用されてきており、ACTFL 韓国委員会 (ACTFL Testing Committee Korea)<sup>10</sup>を中心に ACTFL 評価尺度についての研究やセミナーやワークショップなどが定期的に開かれている。また、ACTFL と連携し、ACTFL コリア・フォーラムという国際学術大会も開催されている。ACTFL 関連の研究動向などを把握することにより、韓国の外国語教育や外国語としての韓国語教育の分野における CEFR の導入・適用をより具体化させることができると考えられる。

#### <参考文献・関連サイト一覧>

- Council of Europe (2001) Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment, Cambridge : Cambridge University Press.
- Conseil de l'europe (2003) Portfolio européen des langues, Didier.
- Conseil de l'europe (2006) Portfolio européen des langues 15 ans et plus, Didier.
- 권영숙[グォン・ヨンスク] (2008) 「사회적 소프트웨어를 이용한 웹기반 외국어 학습모델—장로회 신학대학교의 독일어 수업 모델을 중심으로—」 [社会的ソフトウェアを利用したウェブベース外国語学習モデル ——長老会神学大学校のドイツ語授業モデルを中心に——], 한국독일어교육학회지[韓国ドイツ語教育学会誌], 23 号, pp.1-20, 한국독일어교육학회[韓国ドイツ語教育学会].
- 권영숙[グォン・ヨンスク] (2009) 「독일어 교육과정의 등급 기술을 위한 유럽공통참조기준의 활용」 [ドイツ語教育課程におけるレベル記述のためのヨーロッパ共通言語参照枠の活用], 한국독일어교육학회지[韓国ドイツ語教育学会誌], 25 号, 2 卷, pp.5-25, 한국독일어교육학회[韓国ドイツ語教育学会].
- 김중섭[金重燮]他 (2011) 『국제 공용 한국어 표준 모형 2 단계』 [国際通用韓国語標準モデル 2 段階], 서울[ソウル] : 국립국어원[国立国語院].
- 한국교육과정평가원[韓国教育課程評価院] (2005) 『제 2 외국어과 교육과정 개선 방안 연구』 [第二外国語科教育課程改善方案研究], 한국교육과정평가원[韓国教育課程評価院].
- 吉島茂・大橋理枝 (訳、編) (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』, 朝日出版社.
- 윤선영[ユン・ソニョン] (2008) 「유럽 공통 참조 기준과 포트폴리오 설계 —프랑스어 학습자를 위한 질적평가 모델 개발—」 [ヨーロッパ言語共通参照枠とポートフォリオ設計—フランス語学習者のための質的評価モデル開発—], 『교육과정평가연구』 [教育課程評価研究], 11 号, 2 卷, pp.47-69, 한국교육과정평가원[韓国教育課程評価院].

<sup>10</sup> ウェブページ <http://actflkorea.or.kr/bbs/index.html>